

## 授業概要

本演習は学生に幅広い分野に関心を持ってもらい、自分の問題意識を探る演習講座です。基礎演習はいわば自分の関心のある課題や分野を探ることが目的であると考えます。当該目的に沿った教科書の一つとしてアダム・スミスがあります。しかし、問題意識を探る目的で古典を用いることは、古典には難しい部分があり適切ではありません。そのため、アダム・スミスの世界を解説している文献を輪読します。

本演習では、身近な人間関係で構築された世界のみならず外の問題にも関心を持ってもらうことを基調として、卒業論文作成の基礎知識が身に付くよう指導します。大学が実施するイベントや活動に積極的に参加・協力することによって、当該問題に関心を持つことを促します。また、文献を輪読することによって問題提起ができるようになることを促します。

外の問題にも関心を持って問題提起ができるようになると、どんな分野の専門演習を3年次に履修しても良い卒業論文を書くことができます。

## 授業計画

第 1 回	ガイダンス 授業概要と評価方法	第 16 回	今年度春期 振り返り
第 2 回	前年度秋期 振り返り	第 17 回	履修計画 時間割作成
第 3 回	履修計画 時間割作成	第 18 回	産学連携活動 参加(協力)準備
第 4 回	体育祭 紹介・参加申込	第 19 回	大学祭 出展準備
第 5 回	履修登録 確認	第 20 回	履修登録 確認
第 6 回	ゼミ紹介文作成 写真撮影	第 21 回	事前報告① 読んできて欲しい箇所等
第 7 回	オープンキャンパス 紹介・参加申込	第 22 回	報告 秩序を導く人間本性
第 8 回	図書館ツアー 蔵書探索・蔵書検索	第 23 回	報告 繁栄を導く人間本性
第 9 回	自然体験プログラム 紹介・参加申込	第 24 回	報告 国際秩序の可能性
第 10 回	図書館ツアー データベース検索	第 25 回	報告 国富論の概略
第 11 回	文献輪読とは 問題提起の重要性	第 26 回	事前報告② 読んできて欲しい箇所等
第 12 回	文献輪読 発表担当の割り振り	第 27 回	報告 繁栄の一般原理：分業
第 13 回	産学連携活動 紹介・参加(協力)申込	第 28 回	報告 繁栄の一般原理：資本蓄積
第 14 回	大学祭 紹介・参加申込	第 29 回	報告 現実の歴史・重商主義の経済政策
第 15 回	夏季休暇 課題の整理	第 30 回	報告 今なすべきこと
		第 31 回	

## 到達目標

- ・身近な人間関係で構築された世界のみならず、外の問題にも関心を持つことができる。
- ・要約および問題提起を含む報告資料を事前に作成することができる。
- ・双方向型のプレゼンテーション（活発なディスカッション）ができる。

## 履修上の注意

・この授業は、PBL（Project Based Learning）を積極的に用い、学生間での意見交換を重視し参加型の演習を行います。特別講師等を外部から招聘する場合があります。費用負担が生じる活動があります。

・シラバスの内容は、参加者の人数や受講学生の関心などに応じて調整・変更される場合があります。また、通常の学内教室以外で授業（学外授業）を実施する場合があります。遅刻3回で欠席1回分にカウントします。

・必要なら初歩的レベルから丁寧に解説をしていくので、基礎知識がなくてもやる気さえあれば十分な能力を身につけられるように指導します。

## 予習・復習

予習・復習および発展学習を兼ねて教科書をよく読むこと。

## 評価方法

発表 50%、演習などへの取り組み姿勢 50%で評価します。また、毎回出席を取ります。

## テキスト

- ・教科書名：アダム・スミス：『道徳感情論』と『国富論』の世界（中公新書 1936）
- ・著者名：堂目卓生
- ・出版社名：中央公論新社
- ・出版年月：2008年3月 ISBN：978-4-12-101936-3 本体 880円＋税

## 授業概要

SDGsという言葉がいよいよ社会全体において浸透してきました。今日までに人類は、人間を中心とした諸活動を続けた結果、地球全体で様々な問題を抱えることとなり、このままではもう一つ地球が必要になるとまで言われている中、人類共通の目標として、17のゴールと169の具体的なターゲットが示されたものです。ゴールを2030年とする中、半分以上を折り返す時期となってきており、いよいよ企業や個人個人の取り組みも含め、地球全体で本格的に取り組まなければならなくなってきました。SDGs達成にはビジネスの力が不可欠とされています。本演習においては、一つひとつのゴールの実現のために、具体的にどのような社会変革が必要であるか、どのような新たなビジネスの視点が必要であるか等も含め、ディスカッションやプレゼンテーション経験なども行いながら理解を深め、自身のキャリアビジョンにつなげられる力を養成することを目的とし、指導します。

## 授業計画

第1回	SDGsとは?	第16回	住み続けられるまちづくりを(ゴール11)
第2回	身近なことからSDGsを考える	第17回	つくる責任つかう責任(ゴール12)
第3回	17のゴールと169のターゲットの関係	第18回	気候変動に具体的な対策を(ゴール13)
第4回	5つのP ①(人間(People)・豊かさ(Prosperity)・地球(Planet))	第19回	海の豊かさを守ろう(ゴール14)
第5回	5つのP ②(平和(Peace)・パートナーシップ(Partnership))	第20回	陸の豊かさを守ろう(ゴール15)
第6回	貧困をなくす(ゴール1)	第21回	平和と公正をすべての人に(ゴール16)
第7回	飢餓をゼロに(ゴール2)	第22回	パートナーシップで目標を達成しよう(ゴール17)
第8回	すべての人に健康と福祉を(ゴール3)	第23回	地球の諸課題とビジネスの関係
第9回	質の高い教育をみんなに(ゴール4)	第24回	SDGsから見えてくるビジネスニーズ
第10回	ジェンダー平等を実現しよう(ゴール5)	第25回	SDGsとマーケティングの関係
第11回	安全な水とトイレを世界中に(ゴール6)	第26回	事例から学ぶSDGs①(航空機産業他)
第12回	エネルギーをみんなにそしてクリーンに(ゴール7)	第27回	事例から学ぶSDGs②(自動車産業他)
第13回	働きがいも経済成長も(ゴール8)	第28回	ビジネスの発展につながるSDGs
第14回	産業と技術革新の基盤をつくろう(ゴール9)	第29回	SDGsが生み出す未来のビジネス
第15回	人や国の不平等をなくそう(ゴール10)	第30回	まとめ

## 到達目標

- ・書く能力、コミュニケーション能力、論理的思考、プレゼンテーション能力が習得できる。
- ・SDGsを熟知し、地球上の諸課題について理解を深める。
- ・問題解決のための具体的な方法について、多面的な視点から考えることができる。

## 履修上の注意

好奇心旺盛な学生の皆さんを歓迎します。就職に備えて、この機会にSDGsすべてについて説明できるようにしましょう。また具体的な地域社会支援活動として産学連携活動にも是非関心を持ってください。

## 予習復習

毎回の単元前に予習1時間程度、演習後に復習1時間程度の自主学習の課題の提示を行う。

## 評価方法

試験(最終レポート含む)60%、小レポート及びプレゼンテーション40%

## テキスト

水野雅弘・原裕著『SDGsが生み出す未来のビジネス』インプレス ISBN9784295008965 1680円

**授業概要**

3年次の専門演習で企業の経済活動に関する情報に関連して『有価証券報告書』などを使用した演習を予定しているため、上場している企業の経済活動や情報を知ることが目的とした演習である。そこで、まず、企業の経済活動に影響を与えているSDGsを理解し、世界が抱えている諸問題を知ることから始める。そのうえで、いくつかの業界の全体像を概観し、そこでの企業や商製品などをレポートしてもらう。演習は、ゼミ生が何らかの課題についてレジュメを作成し、プレゼンを行う形式を予定している。また、就職活動に備えた準備段階では、自らが積極的に企業のことを知る姿勢が大切であるため、その姿勢が養われるように指導する。

なお、下記の授業計画は2023年度（第19回まで）の内容と予定を参考までに示すものであり、2023年度は受講生により業界や企業は変わるようになる。

**授業計画**

第1回	SDGs（持続可能な開発目標）の意義	第16回	秋期の課題ガイダンス
第2回	環境問題の理解	第17回	メガバンクの沿革とフィナンシャルグループ
第3回	環境問題の事例	第18回	各フィナンシャルグループの事業
第4回	経済問題の理解	第19回	三菱UFJ・三井住友・みずほの各銀行事業
第5回	経済問題の事例	第20回	以下、予定。地方銀行の概要
第6回	社会問題の理解	第21回	地方銀行の事例と事業内容（第1チーム）
第7回	社会問題の事例	第22回	地方銀行の事例と事業内容（第2チーム）
第8回	17の目標の理解①（目標1～4）	第23回	地方銀行の事例と事業内容（第3チーム）
第9回	17の目標の理解②（目標5～8）	第24回	地方銀行の特徴とまとめ
第10回	17の目標の理解③（目標9～12）	第25回	信用金庫の概要
第11回	17の目標の理解④（目標13～17）	第26回	信用金庫の事例と事業内容（第1チーム）
第12回	日本郵政のSDGsに対する取組調べ（第1チーム）	第27回	信用金庫の事例と事業内容（第2チーム）
第13回	良品計画のSDGsに対する取組調べ（第2チーム）	第28回	信用金庫の事例と事業内容（第3チーム）
第14回	日本郵政のSDGsに対する取組プレゼン	第29回	信用金庫の特徴のまとめ
第15回	良品計画のSDGsに対する取組プレゼン	第30回	3年次のインターンシップに向けて
第16回	第12回～14回のまとめレポート提出	第31回	就職を志望する業界に属する企業に関するレポート提出

また、回数や内容は目安であり、進捗により適宜変更・調整する。また、人数にもよる。

**到達目標**

- ・ 質疑応答にこたえられる責任をもったレジュメ・レポートの作成と報告ができる。
- ・ 調べた業界の全体像を知るとともに、就職先として希望する業界や企業を発見する。

**履修上の注意**

- ・ 登録前に必ず面談し、担当者の意図を理解した上で選択すること。
- ・ 履修指導を含め、通常の演習時間以外の活動（例えば、指定するキャリアセンター主催の行事）などを積極的に指示する。
- ・ 全員参加の学外授業をする場合がある（他学年・他ゼミと合同のこともある）。

**予習復習**

- ・ 予習：報告レジュメの作成。
- ・ 復習：課題レポートの作成。

**評価方法**

- ・ グループワークにおける積極的な参加姿勢やレジュメ作成といった平常点（50%程度）および提出された課題（50%程度）を目安に評価する。

**テキスト**

- ・ 特に指定しない。
- ・ 参考文献：『会社四季報 業界地図』（2024年版）、東洋経済新報社（ISBN：978-4492973332）。

## 授業概要

本演習は、おもに2冊の本を読むことで、「考えることの楽しさ」や「情報を正確に読みとる力、ものごとの筋道を追う力。受け取った情報をもとに自分の論理をきちんと組み立てられる力」を身につけ、「自分の頭で考えていくことができる」やり方を学び、今後の講義や演習、社会に出て実践する能力を身につけて欲しいと思います。また、経営学研究の方法論を学び、学術研究のやり方を学んでください。卒業論文の執筆には必要な知識です。演習は、事前にテキストや論文を読み、その要約とコメントをレジュメとして毎回提出してもらいます。それをもとに全員でディスカッションと教員から理論の解釈について説明をおこないます。

## 授業計画

第1回	ガイダンス	第16回	マネジメント研究と研究方法論の重要性
第2回	知的複眼思考法とは何か①	第17回	存在論・認識論・研究アプローチ①
第3回	知的複眼思考法とは何か②	第18回	存在論・認識論・研究アプローチ②
第4回	創造的読書で思考力を鍛える①	第19回	マネジメント研究:研究方法論の選択
第5回	創造的読書で思考力を鍛える②	第20回	インタビュー①:理論
第6回	考えるための作文技法①	第21回	インタビュー②:実践
第7回	考えるための作文技法②	第22回	実験法と準実験法
第8回	問いの立てかたと展開の仕方①	第23回	サーベイリサーチ
第9回	問いの立てかたと展開の仕方②	第24回	エスノグラフィー①
第10回	問いの立てかたと展開の仕方③	第25回	エスノグラフィー②
第11回	複眼思考を身につける①	第26回	ケーススタディ①:研究方法論の再考
第12回	複眼思考を身につける②	第27回	ケーススタディ②:ケースの選択基準と研究事例
第13回	ケース①:ビジネスモデル	第28回	学術論文を読む①
第14回	ケース②:新規事業創造	第29回	学術論文を読む②
第15回	ケース③:ベンチャー企業	第30回	学術論文を読む③
		第31回	レポート提出

## 到達目標

- ① 知的複眼思考法を理解できる
- ② マネジメント研究における方法論の必要性を説明できる
- ③ ケースを通じて実際の企業の経営課題等が理解できる

## 履修上の注意

- ① 遅刻・欠席はなるべくしないでください。
- ② 演習という少人数の環境なので、積極的に自分の考えを発言してください。

## 予習・復習

- ① 予習は、テキストの次回の講義の該当箇所を読んで、レジュメ（要約とコメント）を作成してください。
- ② 復習は、演習中に新たに出てきた専門用語や理論など、再度調べて理解を深めるようにしてください。

## 評価方法

- ① 毎回提出のレジュメの内容を評価します。50%
- ② 講義・ディスカッションへの参加度合を評価します。30%
- ③ レポートの提出を評価します。20%

## テキスト

- ・教科書名：知的複眼思考法
- ・著者名：荻谷 剛彦
- ・出版社名：講談社
- ・出版年 (ISBN)：2002年 (978-4062566100)

教科書名：マネジメント研究への招待

- ・著者名：須田敏子
- ・出版社名：中央経済社
- ・出版年 (ISBN)：2019年 (978-4502296116)

## 授業概要

佐藤正勝ゼミは、4年間で、次の5つの力を養成することを目的としています。これらを目的とする理由は、就職戦線で勝ち組になること、そして、社会に出てからも、仕事を上手に処理できることで、生き生きとした人生をおくることができること、等にあります。基礎演習では、教養演習で培った力を前提に、その一段上の実践的能力を付けることができるよう指導します

5つの力とは、①人と楽しく正確に話ができる力、②社会人基礎力、③自分を知る、④問題提起・思考・分析・解決力、⑤社会の現実を知る力、です。

ゼミでは、ゼミ生自身が、自ら考え、自ら練習し、自ら実行するように、指導します。基礎演習では、教養演習のときよりも、より深く理解し、自分自身での実行というものができるように指導します。

例えば、(1)自分史を作成して、自分の半生をより深く振り返る、(2)その振り返りを通じて、自分とはどのような人(性格、得意不得意、強み弱み、価値観・信条等)かを、より正確に知る、(3)次に、自分の強み・得意分野を他人(就職先の面接官等)に対して、よりスムーズに伝えることができる、(4)自らの特質を踏まえて、解決策を施行し、実行し、反省し、改善に向けて動き出す力を、十分に付けることを指導します。

## 授業計画

第1回	ガイダンス(自己紹介、授業進め方等)	第16回	社会人基礎力(中級編⑤社会用語基礎②)
第2回	人と楽しく話ができる(中級編①)	第17回	社会人基礎力(中級編⑥社会用語基礎③)
第3回	人と楽しく話ができる(中級編②)	第18回	社会人基礎力(中級編⑦社会用語基礎④)
第4回	人と楽しく話ができる(中級編③)	第19回	社会人基礎力(中級編⑧SPI①)
第5回	人と楽しく話ができる(中級編④)	第20回	社会人基礎力(中級編⑨SPI②)
第6回	人と楽しく話ができる(中級編⑤)	第21回	問題提起・思考・分析・解決力中級編①
第7回	自分を知る(中級編①)	第22回	問題提起・思考・分析・解決力中級編②
第8回	自分を知る(中級編②)	第23回	問題提起・思考・分析・解決力中級編③
第9回	自分を知る(中級編③)	第24回	問題提起・思考・分析・解決力中級編④
第10回	自分を知る(中級編④)	第25回	社会の現実を知る中級編①
第11回	自分を知る(中級編⑤)	第26回	社会の現実を知る中級編②
第12回	社会人基礎力(中級編①)	第27回	社会の現実を知る中級編③
第13回	社会人基礎力(中級編②)	第28回	社会の現実を知る中級編④
第14回	社会人基礎力(中級編③)	第29回	まとめ①
第15回	社会人基礎力(中級編④社会用語基礎①)	第30回	まとめ②
		第31回	期末レポート

## 到達目標

社会人としての資質・能力を養成するために、次のことをできるようにします。

- [(1)] 人と楽しく正確に話ができる。就職面接や職場での意思疎通に必須の力です。
- [(2)] 社会人基礎力を身に付けることができる。言語能力、数的計算能力、一般常識を学習します。
- [(3)] 自分というものを知らることができる。就職では、自分の強みをアピールすると採用されます。
- [(4)] 問題を提起し、思考し、分析し、解決することができる。社会人はこの力を発揮して仕事をします。
- [(5)] 社会の現実を知ることができる。社会になって、こんなことは知らなかったでは、済みません。

## 履修上の注意

授業への出席、宿題の提出期限について、その遵守は、とても重要です。なぜなら、社会人になったら、会社を欠勤したり、上司の指示に遅れて仕事をするなど、あってはいけないからです。特に、1年生ではなく、2年生になりましたので、自分の頭で自ら考え、自ら実行することを意識して下さい。

## 予習・復習

予習は、教員作成の教材を予習します。特に、宿題を毎回出すので、それをしっかりと実行することが必要です。なぜなら、予習・宿題を実施すること自体が、次のゼミ授業をよく理解することに繋がり、したがって、前述5つの項目の実力が向上することにつながるからです。90分1回の授業について、自宅等での予習復習(その内容は、[理解・訓練・実行]ことです)だけのために合計4時間程度を充てるのが、必要です。

## 評価方法

期末レポートへの配点が70%、宿題提出・発表の内容等が30%です。

## テキスト

・教科書名：なし(授業で独自資料を配布します)

## 授業概要

昨今の社会においてキャリアは実に多様化している。本授業では、そのようなキャリアの現状と展望について学び、社会における「働くこと」の意味を理解することを目標とする。そして、その上で、受講者一人一人がこれまでの自分を振り返り自分の適性を見つめ直すことで自己理解を深め、自分のキャリアについて考える端緒となるような授業を展開する。また、グループワークを通して、自分とは違った見方・考え方に触れ、視野を広げることで、自身のこれからの生き方について再考を促すような授業とする。

## 授業計画

第 1 回	<b>第Ⅰ章 サービススタッフの資質</b> 心構え	第 16 回	慶事と弔事
第 2 回	基本行動①明るく誠実である	第 17 回	物の名称・数え方
第 3 回	基本行動②素直で協調性がある	第 18 回	カタカナ用語
第 4 回	基本行動③忍耐力と適切な行動	第 19 回	第Ⅲ章 小テスト
第 5 回	好印象・好感度①あいさつと所作	第 20 回	<b>第Ⅳ章 対人技能</b> コミュニケーション①
第 6 回	好印象・好感度①清潔感ある身だしなみ	第 21 回	コミュニケーション②
第 7 回	第Ⅰ章 小テスト	第 22 回	接遇の基本①
第 8 回	<b>第Ⅱ章 専門知識</b> サービスの意義	第 23 回	接遇の基本②
第 9 回	サービスの機能①	第 24 回	マナー①お辞儀、立ち居振る舞い
第 10 回	サービスの機能②	第 25 回	マナー②案内、席次
第 11 回	サービスの種類①	第 26 回	マナー③和室、食事
第 12 回	サービスの種類②	第 27 回	第Ⅳ章 小テスト
第 13 回	従業知識	第 28 回	<b>第Ⅴ章 実務技能</b> 問題の処理、環境の整備
第 14 回	第Ⅱ章 小テスト	第 29 回	金品の管理と搬送、社交業務
第 15 回	<b>第Ⅲ章 一般知識</b> ことわざ・慣用表現	第 30 回	第Ⅴ章 小テスト
		第 31 回	全体の期末テスト

## 到達目標

本講義では、上記概要を充たす、ビジネス系検定の「サービス接遇検定 3・2・準 1 級」取得のテキストや 3 級の過去問題を使う。実際の過去問題を用いて学生が答えを出した後に解答・解説を行い、各問題のキーワードの理解を深める。なお、3 級既修得の学生などについては個別に 2 級、準 1 級や 1 級の指導も行う。この検定により、サービス業に従事するスタッフの求められる資質・能力が理解できる。また、就職のために、学生時代に修得しておく必要のある、正しい言葉遣いや態度が理解できる。

## 履修上の注意

学生と講師によるディスカッションを本講義では大切にしたいと考えている。

## 予習・復習

★企業を取り巻くグローバル経済・社会の最近の動向について、新聞記事・テレビでニュース・インターネット等を活用し企業の経営活動や経営戦略を定期的にフォローしてすること。

★関心のある企業の「経営戦略」（多くの企業で「中期経営計画」として企業のホームページでの「企業情報」や「IR（投資家向け情報）」に公表されている）を読み（ホームページで閲覧可能）、専門用語等についての理解を深めておくことが望ましい。

★本講義では、学生と講師によるディスカッションを大切にしたいと考えている。

## 評価方法

1】期末試験の成績（30%） 2】小テスト（50%） 3】講義への貢献度（20%）

## テキスト

- ・教科書名：『ユーキャンのサービス接遇検定 3 級・2 級・準 1 級合格テキスト&問題集』
- ・著者名：ユーキャンサービス接遇検定試験研究会
- ・出版社名：ユーキャン自由国民社
- ・出版年（ISBN）：2020（978-4-426-61214-6）

また、教員オリジナルの資料も使用する。実際の経営資料等も含まれるため事前配布は行わない。必要に応じて、授業後に配布可能なスライドを配布する。

**授業概要**

本演習は、会計学の基礎を学習することを目的としている。具体的な学習内容は、複式簿記の基本原則、企業会計基準の考え方や用語解説などである。基本的には専門書の輪読する方法です進めるが、また新聞や雑誌などを通じて会計の基礎学力を強化も行う。後半では、専門演習に備え、レジュメの書き方や発表の仕方の取得も合わせて進める。

**授業計画**

第 1 回	会計学の意義	第 16 回	純資産の測定と認識 1
第 2 回	複式簿記の原理 1	第 17 回	純資産の測定と認識 2
第 3 回	複式簿記の原理 2	第 18 回	財務諸表の作成と解説 1
第 4 回	財務諸表の読み方 1	第 19 回	財務諸表の作成と解説 2
第 5 回	財務諸表の読み方 2	第 20 回	財務諸表の作成と解説 3
第 6 回	資産の測定と認識 1	第 21 回	レジュメ作成と発表の仕方 1
第 7 回	資産の測定と認識 2	第 22 回	レジュメ作成と発表の仕方 2
第 8 回	資産の測定と認識 3	第 23 回	レジュメ作成と発表の仕方 3
第 9 回	負債の測定と認識 1	第 24 回	各自のテーマの報告と討論 1
第 10 回	負債の測定と認識 2	第 25 回	各自のテーマの報告と討論 2
第 11 回	収益の測定と認識 1	第 26 回	各自のテーマの報告と討論 3
第 12 回	収益の測定と認識 2	第 27 回	各自のテーマの報告と討論 4
第 13 回	費用の測定と認識 1	第 28 回	各自のテーマの報告と討論 5
第 14 回	費用の測定と認識 2	第 29 回	各自のテーマの報告と討論 6
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ

**到達目標**

- ・簿記知識は日商簿記 3 級以上の水準に引き上げる。
- ・発表レジュメを適切に作成することができる。
- ・発表能力を向上させる。

**履修上の注意**

- ・毎回必ず出席して欲しい。
- ・演習は参加型授業なので、積極的に、発言、議論して欲しい。
- ・就職試験に関する指導（ニュース検定試験などの実施）を行う。

**予習・復習**

- ・毎回の学習テーマについて予習及び復習をして欲しい。
- ・各期 3 回以上のレポートの提出を求める。

**評価方法**

レジュメの作成と発表（40%）、課題レポート（40%）、ゼミでの積極性（20%）などを総合的に評価する。

**テキスト**

- ・教科書名：
- ・著者名：
- ・出版社名：
- ・出版年（ISBN）：
- ・必要に応じて文献などを紹介する。

## 授業概要

この授業では「日本経済新聞」の連載『私の履歴書』を教材に、松下幸之助、盛田昭夫、本田宗一郎など数々の名経営者たちの経営哲学に触れ、その「仕事の極意」、「プロフェッショナル論」、そして「人生の流儀」を学び、参加者全員で議論し、考えを深めていく。この過程を通して、有名企業の創業者たちの言葉、考え方に触発され、履修者諸君の自由な発想とチャレンジ精神を高めると同時に、資料収集力、整理・分析力、わかりやすく正確に伝える力の育成を目指す。終盤には補充教材を使ってIT業界の現役経営者たちについても調べ、理解を深めていきたい。

## 授業計画

第1回	オリエンテーション(授業の内容、目標、進め方、評価方法などの説明)	第16回	春期の内容を振り返って、秋期の目標を設定する
第2回	世間の「常識」を覆した企業家たち(総論Ⅰ)	第17回	会社とは何か、なぜ働くのか(総論Ⅰ)
第3回	逆境を乗り越えた苦勞人(総論Ⅱ)	第18回	必ず頭角を現す経営者の条件(総論Ⅱ)
第4回	大賀典雄(ソニー)	第19回	土光敏夫(石川島播磨重工業)
第5回	鈴木敏文(セブン&アイ・ホールディングス)	第20回	賀来龍三郎(キャノン)
第6回	本田宗一郎(ホンダ)	第21回	八尋俊邦(三井物産)
第7回	松下幸之助(松下電器産業・現パナソニック)	第22回	石坂泰三(東芝)
第8回	伊藤雅俊(イトーヨーカ堂)	第23回	大谷米太郎(大谷重工業)
第9回	市村清(リコー)	第24回	樋口廣太郎(アサヒビール)
第10回	立石一真(オムロン)	第25回	中内功(ダイエー)
第11回	宮崎輝(旭化成)	第26回	吉田忠雄(YKK)
第12回	安藤百福(日清食品)	第27回	IT業界の新世代経営者Ⅰ(自由選択)ービル・ゲイツ(マイクロソフト)、スティーブ・ジョブズ(アップル)、ジェフ・ベソス(アマゾン)、セルゲイ・ブリン(グーグル)など
第13回	議論・発表:以上の経営者たちの共通点は何か、それぞれの特徴は何か。	第28回	IT業界の新世代経営者Ⅱ(自由選択)ー孫正義(ソフトバンク)、三木谷浩史(楽天)、南場智子(DeNA)など
第14回	同上、つづき	第29回	IT業界の新世代経営者Ⅲ(自由選択)ー任正非(ファーウェイ)、馬雲(アリババ)、馬化騰(テンセント)など
第15回	春期内容のまとめ	第30回	秋期内容のまとめ
		第31回	定期試験

## 到達目標

- 1、経営史、企業史の基礎知識が習得できる。
- 2、自分の考えや意見をわかりやすく正確に伝える力を身につける。
- 3、著名な経営者、創業者たちの人生を振り返ることで、自分の人生目標を考えることができる。

## 履修上の注意

- 1、報告者は毎回分担内容をきちんと準備し、確実に発表すること
- 2、授業中の居眠りやスマホいじりはマイナス評価になる(認められる場合は検索が可能)
- 3、時間に余裕があるときに、履修者にそれぞれ気になるニュースを話し、自分の見解を述べていただく。

## 予習・復習

報告者でなくても予定の内容を事前に通読すること。

## 評価方法

ゼミ参加の積極性と発表内容80%、定期試験20%で評価する。

## テキスト

初回の授業で指示する。



## 授業概要

ポストコロナの日本および世界では、経済、企業経営、社会、産業の面で大きな変革が進展しており、新しい経済社会の姿が構築されつつあります。この演習では、主に経済、企業経営、産業動向、社会生活などの分野において現在進行しているトレンドを理解することによって、皆さんが社会人になるうえでの基礎的な知識を身に付けることを目的とします。各回のゼミでは、ゼミ生全員がテキストの指定個所を事前に読んできて、事前に割り振られた担当の学生が報告資料を作成したうえで発表し、その内容について全員で議論する形で、進めていきたいと思っています。したがって、演習に主体的に取り組む意欲のある学生を求めます。なお、秋に開催される大学祭では、ゼミ生による研究発表会を実施する予定です。

## 授業計画

第 1 回	この演習で学ぶこと	第 16 回	産業動向 —国内半導体産業—
第 2 回	価値創造と所得拡大の好循環に向けて	第 17 回	産業動向 —中小企業 DX—
第 3 回	成長と分配の好循環への挑戦	第 18 回	産業動向 —スペースポート—
第 4 回	こども・子育て支援の加速化プラン	第 19 回	産業動向 —メタバース—
第 5 回	サステナビリティ変革元年	第 20 回	産業動向 —クラウドサービス—
第 6 回	生成 AI がもたらす知的生産革命	第 21 回	産業動向 —建設業 2024 年問題—
第 7 回	地政学リスクへの対応	第 22 回	産業動向 —周波数オークション—
第 8 回	ポストコロナの地方活性化	第 23 回	産業動向 —自動配送ロボット—
第 9 回	企業に求められる「人権尊重経営」	第 24 回	地球環境 —気象ビジネス—
第 10 回	企業経営 —低 PBR の改善—	第 25 回	地球環境 —水素利活用—
第 11 回	企業経営 —J-SOX 改訂—	第 26 回	地球環境 —プラスチック資源循環—
第 12 回	企業経営 —無形資産ガバナンス—	第 27 回	地球環境 —生物多様性—
第 13 回	企業経営 —脱炭素経営支援—	第 28 回	地球環境 —サーキュラーシティー—
第 14 回	企業経営 —中小企業 ESG—	第 29 回	地球環境 —GX 推進政策—
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ
		第 31 回	課題レポートの提出

## 到達目標

- 日本および世界経済、産業動向、企業経営、社会生活などの分野における基本的な知識や考え方を理解し、それらに基づき課題や改善策などを指摘することができる。
- 報告資料を適切に作成し、効果的なプレゼンテーションを実施することができる。
- 各回のテーマについて、有意義な議論を展開することができる。

## 履修上の注意

予習、復習をきちんとすることと、毎回出席することが基本的な履修条件です。

## 予習・復習

テキストの指定された個所を事前に読んで理解するとともに、各回のゼミ終了後に授業内容を復習することを求めます。

## 評価方法

担当個所の発表 40%、各回のテーマに関する意見表明 30%、課題レポート 30%。

## テキスト

- ・教科書名：『2024 年 日本はこうなる』
- ・著者名：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（編）
- ・出版社名：東洋経済新報社
- ・出版年：2023 年 11 月 ISBN：978-4-492-39676-6 ￥1,980（税込）

## 授業概要

経済には、なぜ変動があるのでしょうか。それは、政府の経済運営が間違ってしまった結果なのでしょうか。多分にその要因はあるかとは思いますが。しかしながら、もしそうなのだとすれば、どこがどのように間違ってしまったのか、それを修正するためにはどうすればよいのか、については、経済の仕組みを理解する必要があります。なぜ好景気と不景気は交互にやってくるのか。不景気を克服するためにはどのような施策が求められるのか。そして、そもそも「景気」とは何か。

本基礎演習では、こうした経済の仕組みを理解するために、さまざまな角度から経済というものを考えられるように指導する。

## 授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 17 回	回帰分析の方法 1
第 2 回	コンピューターの機能 1	第 18 回	回帰分析の方法 2
第 3 回	コンピューターの機能 2	第 19 回	回帰分析の方法 3
第 4 回	EXCELの機能 1	第 20 回	回帰分析の方法 4
第 5 回	EXCELの機能 2	第 21 回	回帰分析の方法 5
第 6 回	EXCELの機能 3	第 22 回	回帰分析によるモデル分析 1
第 7 回	表の作成と計算 1	第 23 回	回帰分析によるモデル分析 2
第 8 回	表の作成と計算 2	第 24 回	回帰分析によるモデル分析 3
第 9 回	表の作成と計算 3	第 25 回	回帰分析によるモデル分析 4
第 10 回	表の作成と計算 4	第 26 回	回帰分析によるモデル分析 5
第 11 回	表の作成と計算 5	第 27 回	回帰分析による予測 1
第 12 回	適切なグラフの作成 1	第 28 回	回帰分析による予測 2
第 13 回	適切なグラフの作成 2	第 29 回	回帰分析による予測 3
第 14 回	適切なグラフの作成 3	第 30 回	回帰分析による予測 4
第 15 回	適切なグラフの作成 4	第 31 回	まとめ（授業内容の確認）
第 16 回	中間テスト	第 32 回	期末テスト

## 到達目標

- ある経済の傾向や法則を知るためには、どのようなデータを収集すればよいか、を理解できる。
- 集まったデータをどのように処理すればよいか、について理解できる。
- 2つの関係あるデータを結び付け（単純回帰分析）、両者の間にどのような関係があるか、について、統計の方法を学ぶことで理解することができる。
- 興味のある経済や経営のデータについて、今後の動きがどうなるか、についての的確に予測することができる。
- 3つ以上の関係あるデータを結び付け（多元回帰分析）、より多くの情報を取り込むことによって、よりの確な予測をすることができる。

## 履修上の注意

Excel 上での回帰分析を用いた経済分析は、これまで学んでこなかったことであると思われるので、毎回の講義に出席をして、しっかりノートを取り、統計学の方法を自分のものとしてもらいたい。講義で用いるデータ以外にも、自分の興味のある産業のデータを用いるなど、多くのチャレンジをしてもらいたい。

## 予習・復習

毎回到わたって常に新しいデータを提示するので、取得したデータ分析の方法を適用して、予習と復習にあててもらいたい。また、自分に興味のあるデータは身の回りにあふれているので、そうしたデータに積極的に取り組んでももらいたい。

## 評価方法

毎回の参加状況、発表の準備状況、ならびに討議への参加状況などを踏まえて評価する。

## テキスト

教科書については、できるだけ手に入りやすく、またできるだけ安価なものを考えている。したがって、基礎演習が開始された時点で、参考書を含めて指定することにする。

## 授業概要

(1) この演習では、様々なテーマを通じて経済学、経営学、会計学の基礎知識と考え方を学習・修得することを指導する。教員が授業を行うスタイルの講義ではなく「演習」であるので、学生自身の事前の調査・研究と教室での発表・討論を主軸に置いてゼミを進めていく。具体的には①専門分野の書籍を読み、現代社会では何が課題とされているのか、解決方法には何があるのかを指導する。②①の後、自分で調査研究を進め、自分自身の論理的な意見をもつ。③②の意見を発表。その後の議論を通じてよりブラッシュアップしていく。

(2) 経済・経営関係の書籍を基本テキストに取り上げ、内外の社会や経済のしくみを学ぶ演習にしたいと計画している（授業の詳細については、この演習を履修した受講生の関心や勉強希望の分野、学習能力を理解してから最終決定したい）。

(3) 春期、秋期に各1回以上、学外視察を行いたいと考えている（例：証券取引所、日銀、農場、工場等）

## 授業計画

第1回	ガイダンス：春期の基礎演習の進め方	第16回	ガイダンス：秋期の基礎演習の進め方
第2回	テキスト・資料を用いた報告と議論1	第17回	テキスト・資料を用いた報告と議論1
第3回	テキスト・資料を用いた報告と議論2	第18回	テキスト・資料を用いた報告と議論2
第4回	テキスト・資料を用いた報告と議論3	第19回	テキスト・資料を用いた報告と議論3
第5回	テキスト・資料を用いた報告と議論4	第20回	テキスト・資料を用いた報告と議論4
第6回	テキスト・資料を用いた報告と議論5	第21回	テキスト・資料を用いた報告と議論5
第7回	テキスト・資料を用いた報告と議論6	第22回	テキスト・資料を用いた報告と議論6
第8回	学外視察への準備	第23回	学外視察への準備
第9回	テキスト・資料を用いた報告と議論7	第24回	テキスト・資料を用いた報告と議論7
第10回	学外視察	第25回	学外視察
第11回	学外視察の報告会	第26回	学外視察の報告会
第12回	第1回 最終期末レポート発表と討論	第27回	第1回 最終期末レポート発表と討論
第13回	第2回 最終期末レポート発表と討論	第28回	第2回 最終期末レポート発表と討論
第14回	第3回 最終期末レポート発表と討論	第29回	第3回 最終期末レポート発表と討論
第15回	春期の基礎演習のまとめ (最終期末レポート提出)	第30回	秋期の基礎演習のまとめ
		第31回	学部主催の卒論発表会に参加(2月上旬予定)

## 到達目標

- 資料の検索方法、プレゼンテーションの方法、レポート資料のまとめ方を学び、習得することが出来る。
- 書物から学習する能力を向上させることが出来る。
- 問題意識を持ち、問題点、課題点を考察、分析する能力をつけ、自分の考えを持つことが出来る。
- 発表資料の作成、および発表、プレゼンテーションの能力向上させることが出来る(含む、PCソフトウェアポイント、エクセル、ワード-PC操作技術向上)。
- 会議や議論における自分自身の能力(ファシリテーター力、論理的思考能力、コミュニケーション能力、ディベート力、会議をまとめ、議論を発展させる能力)を伸ばすことが出来る。

## 履修上の注意

- 演習は参加スタイルでの授業なので、毎回欠かさず出席すること。欠席の場合は事前にメールで連絡。
- 授業では、積極的に発表、発言、質問、議論をすること。
- キャリア形成、就職試験に関する指導もおこないます(SPIテスト、時事問題、インターンシップなど)
- 教員情報は大学HP、インターネットでキーワード「福永肇」にて検索して得てください。

## 予習・復習

- テキスト、または取り上げるテーマについて演習前によく読み、理解し、発表の準備をする。
- 予習、復習共に書籍、インターネットを活用して調べる。自分で調べる能力、技術を大学時代に取得する。

## 評価方法

- 研究発表・プレゼンテーション(30%)、演習での討論への発言&貢献度(30%)、最終期末レポート(40%)

## テキスト

- 演習での基本テキストは履修した学生と会ってから決定したい。いずれにしても演習では多くの本や、配布する資料を読み込んでいく。
- 令和5年度で使用したテキスト：宮本弘暁著『101のデータで読む日本の未来』(PHP新書)。

## 授業概要

現代社会には国内外にさまざまな解決すべき課題がある。その課題に対して、教養演習Ⅰ・Ⅱでの知見(学び)を活用し、定量的なデータの分析や定性的な観察・考察を通じて、社会合理的な課題解決策をプレゼンテーションやレポートという形で提示していくプロセスを学ぶ。取り上げる課題の例には、▽シャッター通り対策▽高齢ドライバーの事故対策▽鉄道・バスの長期的な輸送需要減少▽新幹線網の拡充▽オーバーツーリズム対策▽人流・物流産業での人手不足▽大量の情報をシャワーのように浴び続ける社会問題などがある。このプロセスでは、経済学や経営学のコアだけでなく、大学生としての総合的な学び・教養が必要である。これが「社会人基礎力の涵養」につながる。この演習ではそれらを「学ぶは楽しい」のモットーの下で培う。また、この演習では、専門演習と縦断的に埼玉高速鉄道との産学連携プロジェクトも取り組む。

## 授業計画

第 1 回	ガイダンス	第 16 回	ガイダンスと前期のふり返り
第 2 回	旅客交通・貨物交通(物流)の特性	第 17 回	情報通信技術のさらなる進化
第 3 回	交通事業の経営形態	第 18 回	まちづくりの現状(人口減少社会)(1)
第 4 回	交通事業の現状を理解する(1)幹線鉄道	第 19 回	まちづくりの現状(人口減少社会)(2)
第 5 回	交通事業の現状を理解する(2)都市鉄道	第 20 回	まちづくりの現状(人口減少社会)(3)
第 6 回	交通事業の現状を理解する(3)国内交通	第 21 回	まちづくりの現状(人口減少社会)(4)
第 7 回	国内観光の現状を理解する(1)	第 22 回	まちづくりと観光(1)
第 8 回	国内観光の現状を理解する(2)	第 23 回	まちづくりと観光(2)
第 9 回	国内観光の現状を理解する(3)	第 24 回	埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(6)
第 10 回	埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(1)	第 25 回	埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(7)
第 11 回	埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(2)	第 26 回	埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(8)
第 12 回	埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(3)	第 27 回	埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(9)
第 13 回	埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(4)	第 28 回	ICT を活かした社会的課題の解決(1)
第 14 回	埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(5)	第 29 回	ICT を活かした社会的課題の解決(2)
第 15 回	ふりかえりと後期の計画確認	第 30 回	ふりかえり

## 到達目標

- (1) 交通を中心に観光やまちづくり、情報通信技術に関して、自ら資料などを収集し、意見交換、発表できる
- (2) 埼玉高速鉄道との産学連携プロジェクトに取り組むことで、「社会人基礎力」の応用レベルを涵養する

## 履修上の注意

- (1) 能動的な演習形式であるため、履修生各自の“やる気”が最も問われる
- (2) 埼玉高速鉄道との産学連携プロジェクト含む PBL (Project/Process Based Learning) を基本とする
- (3) 原則として、ノートパソコンを持参する(毎回とは限らない、事前に告知する)
- (4) 演習時間割以外の時間に活動し、その際に交通費など費用が発生することがある
- (5) 履修生どうしの意見交換(ディスカッション)を重視する
- (6) やむを得ない事由で欠席・遅参する場合は、必ず演習開始前までに連絡する(無連絡欠席を厳禁する)
- (7) 休日を含む演習時間外での学習やさまざまな作業が想定される
- (8) 基礎演習では、大いに「失敗」してほしい。ただし、「同じ失敗」は許されない
- (9) 履修生数や連携プロジェクトの進捗などにより、上記の授業計画を変更することがある

## 予習・復習

自分自身の興味・関心のあるところをさらに調べ、自分の考え、問題解決手法の提案などを表明できるよう、復習することが、次回への準備につながっていく(復習・予習 90 分)。

## 評価方法

①発表の準備状況 35%、②ディスカッションへの参加状況 35%、③論理的な意見表明 30%、の 3 点で評価する。ただし、成績評価には、出席ポイント 10.0pt 以上が必要条件である。

## テキスト

必携するテキストを指定しない。ただし、テーマや必要に応じて演習中に紹介する。

## 授業概要

経営戦略を中心とした経営学領域の演習である。

論理的思考について学びながら、企業経営・経営戦略などについて書かれた文献等を理解するための演習を行う。形式としては、分担にしたがって毎回担当者が発表し、全員で内容を吟味し議論するスタイルである。

プレゼンテーションとグループワークなどを活用しつつ、読解力・コミュニケーション力・文章力など社会に出る前に身につけておくべき基礎能力の養成も図り、思考力を身につけるよう指導する。

## 授業計画

第1回	春期概要：思考力を鍛える	第16回	秋期概要：経営戦略の事例を学ぶ
第2回	論理的思考：演繹法	第17回	ケース1：ストライプインターナショナル
第3回	論理的思考：帰納法	第18回	ケース2：すかいらく
第4回	論理的思考：相関関係と因果関係	第19回	ケース3：TOTO
第5回	論理的思考：事象の構造化	第20回	ケース4：幸楽苑
第6回	文章で説明する	第21回	ケース5：ハイデイ日高
第7回	文章で説明する	第22回	ケース6：パーク24
第8回	図解テクニック	第23回	ケース7：コマツ
第9回	図解テクニック	第24回	ケース8：富士重工
第10回	パワーポイント作成法：構造化	第25回	ケース9：富士フィルム
第11回	パワーポイント作成法：装飾	第26回	ケース10：ヤマトホールディングス
第12回	パワーポイント作成	第27回	ケース11：ソニー
第13回	プレゼンテーション①	第28回	企業研究①
第14回	プレゼンテーション②	第29回	企業研究②
第15回	プレゼンテーション③	第30回	企業研究③

第31回 筆記試験等(含むレポート)

## 到達目標

- 一定の文献読解力、文章力、コミュニケーション力を身につける。
- 企業経営について関心を持ち、経営学領域・経営戦略分野で何を学ぶべきか理解する。
- アイデアの発想法の基本を身につける

## 履修上の注意

- 授業内で指定する文献を購入する必要がある。
- 新聞記事やネット記事を読み、その内容についてプレゼンテーションやディスカッションなどを行い、社会人基礎力を鍛える。これは就職活動にも役立つものである。

## 予習復習

予習には、レジュメの作成と文献の事前の精読を課す。

復習には、プレゼンテーション用資料の作成を課す。

## 評価方法

期末試験50%、レポート50%

## テキスト

授業内で指定する。

**授業概要**

テーマ：スポーツマーケティング／スポーツマネジメント（スポーツ以外のマーケティングについても可能であるが、事前に要相談）

この授業では、テーマに関する基本的な知識を身につけた後、自分の身の回りにあるスポーツマーケティング、スポーツマネジメントの事例を調べ、発表し、共有することを目的に授業を進めていきます。

自分がスポーツ現場のマーケターになったつもりで、身近な例を挙げながら考えることや、また、アイデア等を受講者同士でディスカッションしていきます。

**授業計画**

第1回	前期オリエンテーション	第16回	後期オリエンテーション
第2回	マネジメントとは	第17回	マーケティングとは
第3回	スポーツマネジメント①	第18回	スポーツマーケティング①
第4回	スポーツマネジメント②	第19回	スポーツマーケティング②
第5回	スポーツマネジメント③	第20回	スポーツマーケティング③
第6回	スポーツマネジメント④	第21回	スポーツマーケティング④
第7回	スポーツマネジメント⑤	第22回	スポーツマーケティング⑤
第8回	講義のまとめ	第23回	講義のまとめ
第9回	事例を調べる①	第24回	事例を調べる①
第10回	事例を調べる②	第25回	事例を調べる②
第11回	参加者による発表①	第26回	参加者による発表①
第12回	参加者による発表②	第27回	参加者による発表②
第13回	参加者による発表③	第28回	参加者による発表③
第14回	まとめ	第29回	まとめ
第15回	レポート提出	第30回	レポート提出

**到達目標**

本演習は、以下の2点を到達目標とします。

- 基本的なスポーツマネジメント・スポーツマネジメントの知識を理解することができる。
- スポーツ現場のマーケターになったつもりで、マーケティングの理論等を活用して考えることができる。

**履修上の注意**

- 大学で経営学を学ぶための基礎となる科目です。毎回の授業に必ず出席してください。
- シラバスの内容は、参加者の人数や進捗状況に応じて調整・変更されることがあります。
- やむを得ない場合は欠席（または遅刻）をする場合は、水野まで連絡をすること。
- 水野が担当している専門科目のうち、1科目以上の単位修得をしていることが望ましい。

**予習・復習**

予習：テーマについて調べる。発表担当者は発表の資料（レジュメ・パワーポイント）を作成する。  
 復習：学習した内容を他の授業等で活用し、大学生活を送ること。

**評価方法**

• 授業・課題への取り組み（30%）、グループ活動（20%）、発表（40%）、ディスカッション内容（指摘・質問）10%で評価する。

**テキスト**

• 授業ごとに資料を配布するためテキストの購入はない。参考文献は必要に応じて授業内で提示する。

## 授業概要

この演習はデータサイエンスの入門的事項を学ぶことを目標とします。社会における様々な課題を解決するには、その課題に関わる領域についての専門的知識が必要ですが、同時に、その課題に関連する多様なデータを収集し、分析し、どのような性質・法則が成り立ち、どのようなことが起きているかを解明し、それに基づく創造的判断が必要になります。このデータ収集・分析・構造理解・価値創造という一連の流れを体系化した領域がデータサイエンスと呼ばれ、日々進化しつつあります。基礎演習の前半では、Excel と統計ソフト R を利用してデータサイエンスの入り口を学びます。後半では、Python を使ったデータ処理の基本を学びます。データサイエンスをしっかり学ぶと様々な分野への就職が期待できます。IT 企業はその中の一部です。

## 授業計画

第 1 回	春期ゼミオリエンテーション	第 16 回	秋期ゼミオリエンテーション
第 2 回	データサイエンスとは何か	第 17 回	Anaconda のインストール
第 3 回	統計分析ソフト R のインストール	第 18 回	Package のインストールと環境整備
第 4 回	R の仕組みと使い方	第 19 回	Pandas の練習 1 (基本操作)
第 5 回	R によるデータ処理 1 (データ形式)	第 20 回	Pandas の練習 2 (統計量算出)
第 6 回	R によるデータ処理 2 (編集)	第 21 回	データファイルの読み込み・結合
第 7 回	R によるデータ処理 3 (読み込み機能)	第 22 回	ファイル名一覧化・複数データの結合
第 8 回	R によるデータ処理 4 (読み込み比較)	第 23 回	基本統計量の計算・データクレンジング
第 9 回	R によるデータ処理 5 (出力機能)	第 24 回	マスタデータの結合・マスタ管理
第 10 回	R によるデータ処理 6 (出力比較)	第 25 回	分析結果の出力
第 11 回	分析のためのデータ管理	第 26 回	データファイルの点検と整形
第 12 回	非線形回帰分析 1 (考え方)	第 27 回	月別売り上げの集計
第 13 回	非線形回帰分析 2 (分析方法)	第 28 回	Matplotlib の練習 1 (基本操作)
第 14 回	非線形回帰分析 3 (分析例)	第 29 回	Matplotlib の練習 2 (オブジェクト)
第 15 回	調査分析のデザイン	第 30 回	データの可視化
		第 31 回	年間学習内容の確認

## 到達目標

データ収集・分析・構造理解・価値創造という一連の流れを理解し、自分で簡単な分析を行うことができる。

## 履修上の注意

ゼミ室での実習用に各自ノートパソコンを持って来ることと、春学期の「データサイエンス」の履修が必要です。また、統計学関係の授業を履修済みまたは履修中の方が好ましいです。プログラミングの学習経験は問いませんが、2年次終了までに「プログラミング I・II」と全学共通科目の数学 2 科目の履修が必要になります。

欠席や遅刻をすると、学習内容がだんだん分からなくなってきました。欠席の場合は、メールで事前に連絡してください。メールアドレスはオリエンテーション時にお伝えします。

就職に関する指導を行います。例) 2年次からの就活の進め方、学外研修(日銀・東証など)

## 予習・復習

予習: テキストや配布プリントの指定箇所を精読しておいてください。レポーターになった人は皆に説明できるように事前の学習を進めてください。

復習: 学習内容をよく復習し、体系的理解ができるようにしてください。

## 評価方法

ゼミへの参加態度(学習への積極的関与) 40%、課題 60% で評価します。

ただし、出席回数が全回数の 3分の2 に満たない人は成績評価できませんので注意してください。

## テキスト

- ① 「データサイエンス」の授業で指定する教科書(前半用)
- ② 下山輝昌・三木孝行・伊藤淳二『Python 実践機械学習システム 100 本ノック』秀和システム ISBN 978-4-7980-6341-6(後半用)

## 授業概要

この授業は、ICT（情報通信技術）を企業経営にどのように活用しているかを学ぶ授業です。現代の経営に必要な経営資源（人、モノ、金、情報）を有効に活用して管理運営することです。その1つである情報を収集し分析し活用することが、企業経営の効率化と競争力の強化になります。この授業の目的は、情報技術について学び、その活用方法を学ぶことです。ですから、最初にコンピュータの基礎や情報通信技術を学び、企業でどのようにコンピュータが使われているかの事例を勉強します。プログラミンの知識としてJavaを勉強します。また、発展目覚ましい情報通信技術の最近の注目技術としてAI(人工知能)についても紹介します。

## 授業計画

第1回	情報とは何か、情報化社会について	第16回	AI(人工知能)とは
第2回	ハードウェアの概要1	第17回	AIがもたらす社会の変化
第3回	ハードウェアの概要2	第18回	AIの活用事例
第4回	ソフトウェアの概要	第19回	AIを触ってみよう
第5回	ソフトウェアの種類	第20回	クラウドコンピューティング
第6回	コンピュータによる仕事の処理形態1	第21回	クラウドAI
第7回	コンピュータによる仕事の処理形態2	第22回	クラウドAIを動かそう
第8回	プログラミング学習（Java言語）－1	第23回	クラウドAIの演習1
第9回	プログラミング学習（Java言語）－2	第24回	クラウドAIの演習2
第10回	プログラミング学習（Java言語）－3	第25回	クラウドAIの演習3
第11回	プログラミング学習（Java言語）－4	第26回	グループでAIを動かそう1
第12回	プログラミング学習（Java言語）－5	第27回	グループでAIを動かそう2
第13回	プログラミング学習（Java言語）－6	第28回	グループでAIを動かそう3
第14回	プログラミング学習（Java言語）－7	第29回	発表会
第15回	前期のまとめ	第30回	まとめ

## 到達目標

この授業での到達目標としては、以下のとおり

1. ICT（情報通信技術）の基礎的なことを理解し、その概要を理解できる。
2. ICT（情報通信技術）を学習方法として、Javaプログラミングを理解することができる。
3. AI（人工知能）を理解し、クラウドコンピューティングの環境で動かすことができる。

## 履修上の注意

前半は、座学を中心にICTの知識を深める勉強をします。後半は、演習を取り入れて学習しますので、ノートPCまたはタブレットを使用することになります。また、就職試験に関する指導を行います。例えば、ニュース検定試験、SPIテストなどを実施します。

## 予習・復習

各講義の内容について事前事後に自分でインターネットや本を基に学習することが望ましい。

## 評価方法

演習への積極的な参加30%、レポート提出30% 演習課題の評価40%などで評価する

## テキスト

- ・教科書名： 別途 連絡します。
- ・著者名：
- ・出版社名：
- ・出版年：